

# 屋外飲用のお茶の変遷とリサイクル①

主な出来事

青製煎茶の確立  
永谷宗円(1738年)

横浜港開港 (1859年)

茶缶の製造開始 プリキ製(1861年)

神戸港開港 (1868年)

牧之原開墾開始 (1869年)

現茶業中央会設立 (1884年)

茶葉粗揉機が完成 高林謙三(1884年)

東海道線開通 (1889年)

茶の本刊行 岡倉天心(1906年)

清水港より茶の直輸出開始 (1906年)

静岡鉄道開通 (1908年)

国立茶業試験場設立 (1916年)

出荷配給統制実施 (1945年)

茶業技術協会設立 (1947年)

茶輸出検査法施行 (1949年)

日本茶輸出組合設立 (1952年)

静岡県製茶指導条例制定  
不良製茶の規制(着色および異物混入禁止)(1956年)

緑茶輸入自由化 (1960年)

インスタント緑茶研究 (1961年)

乗用型摘採機(1971年)

紅茶輸入自由化 (1971年)

防霜ファン実用化 (1972年)

深蒸し茶の製造試験 (1977年)

1800年

大政奉還 (1867年)

1900年

第一次世界大戦(1914~18年)

第二次世界大戦(1939~45年)

高度経済成長(1955~73年)

バブル景気(1986~91年)

## お茶を屋外飲用するための工夫

### 茶弁当・爛銅壺



茶弁当



爛銅壺

茶弁当は、物見遊山や旅行に出かける際に茶道具一式と弁当を担ぐために使用された。茶弁当のラックの中には爛銅壺と呼ばれる湯沸器が備わり、弁当と共にお茶を愉しんだ。

## お茶の持ち運び方の工夫

### 水筒



木製(漆塗)水筒(酒樽)



竹製水筒

竹を切って節と節の間に水を入れたものが水筒の原型。江戸時代には漆塗でデザイン性に富んだものも作られた。

### 水筒の変遷…

#### 機能性・利便性の向上、マイボトルへ



<b>陶製</b> (統制陶器) (1940年頃~)	<b>アルミ製</b> (1945年頃~)	<b>魔法瓶</b> (ガラス製⇒割れ) (1960年頃~)	<b>魔法瓶</b> (ステンレス製) (1980年頃~)	<b>マイボトル</b> (ステンレス製) (2010年頃~)
		保温機能	頑丈(割れない) 保温&保冷機能	一人用・軽量化 保温機能向上 機能・デザイン

## 屋外での茶の飲み方の工夫

### 駅売りの茶の変遷…容器形状・材質の変化



汽車土瓶・茶瓶 (1889年)    ガラス茶瓶 (1921年)    ポリ茶瓶 (1957年)    揉み出し茶 (1973年)

駅売りのお茶については、1889年に静岡駅で駅弁と共に販売。容器の土瓶は使用後、窓から投げ捨てられてる等が問題化(使い捨て商品)。その後、価格・販売時の重量などもあり、瓶製、ポリ容器と変化。茶瓶のラベル・駅弁の掛紙にも「ゴミの投げ捨て」の注意表示。

### 駅売りのお茶▶使い捨て・ゴミ問題



汽車土瓶 「空き瓶は腰掛の下へ」  
ガラス茶瓶 「空瓶を窓から投げると線路にいる人に怪我さす」  
駅弁の掛紙(1960年) 「空箱を窓外へ投げ捨てることは危険」

## 清涼飲料としての茶

### 缶入りお茶ドリンク・容器の変遷



紅茶 (1973年)    ウーロン茶 (1981年)    緑茶 (1985年)

自販機、キヨスク、コンビニが缶入りのお茶ドリンクを急速に普及。

### 缶容器のゴミ対策… 散乱防止と軽量化、リサイクルへ



缶切り付き    プルトップ(開栓性)    ステイオンタブ(散乱防止)  
ブリキ缶 約40g (1954年)  
ティン・フリー・スチール缶 (リサイクル性) (1967年)  
2ピース缶 (軽量)約32g (1990年)

清涼飲料

黒船来航(1853年)  
ペリー提督が浦賀に来航した時、飲料水の一部として艦に「炭酸レモネード」を積んでおり、幕府の役人に飲ませた。これが日本の清涼飲料のはじまり。

サイダー発売  
金線サイダー(1899年)  
三ツ矢サイダー(1905年)

果実飲料発売  
バヤリースオレンジ(1949年)  
缶飲料発売(1954年)  
明治天然オレンジジュース発売。  
清涼飲料にワンウェイ容器が使われた最初。  
それまではリターナブル容器であるガラス瓶が一般的だった。

缶飲料の自動販売機稼働開始(1967年)  
缶コーヒー発売  
UCCコーヒー(1969年)  
コンビニエンスストア開業(1970年頃)

スチール缶リサイクル協会設立(1973年)  
アルミ缶リサイクル協会設立(1973年)  
スポーツドリンク発売 ポカリスエット(1980年)  
ガラスびん3R促進協議会設立(1984年)